

## 令和4年度第3回いわき市まちづくり市民会議 議事録

### 1 日 時

令和5年3月8日（水） 13:30～15:00

### 2 場 所

いわき市役所 3階 災害対策本部会議室

### 3 出席委員数

17名

### 4 次第・資料

別紙のとおり

### 5 協議事項

- (1) 委員提案
- (2) 令和5年度の政策について
- (3) その他

### 6 協議事項等の内容

#### ◇ 議事録署名人の選任

発言者	発言要旨
議 長	議長として議事の運営にあたらせていただく。円滑な進行にご協力願う。
委員一同	<p>本日の議事録署名人について、以前定めたとおり、名簿順に指名することとし、渡邊委員と草野宏委員にお願いしたいが、よいか。</p> <p style="text-align: center;">（異議なし）</p>

#### (1) 委員提案（提案者：松本委員）

◇提案テーマ：いわき市が“稼ぐ”公民連携を進めるために必要なこと 資料1

発言者	発言要旨
松本委員	資料1に基づき発表
議 長	只今の発表について、委員の皆様から、質問やご意見、ご感想があればお願いしたい。

強口委員	<p>職員対応の質などに対する厳しいご意見もあり、我々、市社会福祉協議会も、市から様々な委託事業を担い、福祉分野のまちづくりを進めているため、身の引き締まる思いで聞いていた。</p> <p>今後、この会議が、このような委員の経験や取組みなどを通じた「生の声」を基に議論ができる場となれば、より意義のある会議になると感じた。</p>
田子委員	<p>非常に意義深い話が聞けた。</p> <p>我々、経済同友会でも、ひとづくりやまちづくり、経済など、様々な分野について議論を行っているが、我々としても、今後、本日の委員提案のような取組みをベースに議論ができる仕組みを構築することができればと思った。</p>
緑川委員	<p>我々、観光まちづくりビューローは、観光分野のまちづくりを担う法人として、市の委託事業なども担いながら、地域の稼ぐ力を引き出す観光地域づくりに取り組んでいるため、松本委員の発表には、非常に心が揺さぶられた。</p> <p>市予算は、基本原則上、単年度主義であるため、委託事業も単年度単位で実施せざるを得ない状況にある。しかし、目的を達成するためには、複数年をかけて取り組むことが望ましい事業もあり、単年度で業務を実施しようとすると、成果をあげることに注力してしまい、負担が生じている実態がある。</p> <p>着実な成果を上げるまちづくりのため、市は、業務内容に応じた事業の仕組みを構築をするなど、柔軟な対応をお願いしたい。</p>
議 長	<p>松本委員のご指摘は、ごもっともだと思う。</p> <p>しかし、一部、私の認識と異なる点があり、行政は、自ら儲ける組織ではなく、主に儲からないところに対し、公金を投入していくことが役割だと理解している。</p> <p>ただ、社会情勢も刻々と変化してきている中、松本委員の提案のように、収益を前提とした公共施設運用の考え方は、今後、検討が必要になってくると思う。その際、課題となりうるのは、取組みの公平性であり、地域によって、取組みの方向にズレがあるなど、不公平が生じないように、バランスのとれた公共施設運用の仕組みづくりを進めていく必要がある。</p> <p>いずれにしても、公民が連携し、互いに市の課題に取り組んでいくことが大切だ。</p>

(2) 委員提案（提案者：芥川委員〔福島高専生徒〕）

◇提案テーマ：市まちづくり市民会議の提言 **資料2**

※バスロケーションシステムの導入・キャッシュレス決済の導入

発言者	発言要旨
福島高専生徒	資料2に基づき発表
緑川委員	アプリなどを作成した場合、若い世代の皆さんの受け止めはどうか。自分の携帯にダウンロードして活用したいと思うか。
福島高専生徒	現状でも、活用価値を感じないアプリはあるが、バスに関しては、自分たちが利用する交通手段であり、知りたい情報を得るツールとなることから、ダウンロードする価値があると思っている。 無料で利用ができ、自分の知りたい情報を得られるとなれば、携帯の容量も多少増える程度だと思いため、若い世代でもダウンロードするのではないかと思う。
議長	現状でも、生徒たちはバスの時刻表を携帯にダウンロードし、活用している。 若い世代の皆さんも、必要なものはダウンロードして利用するし、必要がなくなればアンインストールするなど、適宜判断して活用している。
緑川委員	バスを利用するのは、社会人よりも圧倒的に学生が多い。 その学生が、生で感じている不便さから提案された内容であるため、行政がうまく解決の糸口を見出していただきたい。 また、この環境整備は、U I J ターンや移住定住の促進にも繋げられる可能性があるため、ぜひお願いしたい。
下境委員	バスへのキャッシュレス決済導入は、観光誘客に取り組む観点からも、導入は必至である。 特に、外国人観光客については、母国の多くが、キャッシュレス決済が常識となっている中、バスに乗るために、わざわざ現金を用意するとか、あるいはバスカードを購入し、残金は窓口の開所時間内に払い戻しの手続きをする必要があるなど、このような不便な状況で、果たして観光誘客が促進できるのか懸念がある。 市役所内でも、市民窓口へのキャッシュレス決済が導入されるなど、徐々にデジタル化の動きが促進されてきたと感じてはいるものの、バスのキャッシュレス決済の導入については、行政主導で、本気で取り組まないといけないと思う。

金子委員	<p>バス利用の利便性向上は、高校生だけではなく、高齢者にとっても大きな課題である。</p> <p>高齢者は、免許返納後、バスが重要な移動手段のひとつとなる。</p> <p>バスロケーションシステムが活用できるようになれば、高齢者にとっても待ち時間を最小にすることができると思うため、ぜひ実現していただきたい。</p>
根本委員	<p>バス利用をしている方のリアルな視点から見た課題に基づく発表であり、非常に良い提案だった。</p> <p>市でも現在、デジタルを活用した次世代交通の取組みに尽力しているものの、そもそも既存公共交通の運用に課題があるということで、実際にバスを利用する高校生から見えるリアルな現状・課題を踏まえた市への提案という、この委員提案の取組みを通じ、市の課題について、一緒に議論が深められる機会となったことから、委員提案は、非常に良い取組みだと思う。</p>
山田委員	<p>公共交通事業者も、日頃から様々な企業努力をしているが、提案のあったバスロケーションシステム導入等については、行政が、どの程度支援できるのかが進めていくうえでのポイントになると思う。</p>
議 長	<p>市の意見はどうか。</p>
事務局	<p>皆様から多くの意見をいただき、我々としても、バス運用における課題について、改めて認識した。</p> <p>ご提案及びご意見に対する本市の取組み状況についてであるが、実は、バスロケーションシステムについては、今年度、システム導入費の補正予算が成立したため、現在、導入に向け準備を進めているところである。</p> <p>また、キャッシュレス決済についても、現在、県が交通事業者と連携し、システム構築に向けた準備を進めているところである。</p> <p>については、遅ればせながらではあるが、近い将来、どちらの取組みも実現する運びとなる。</p> <p>しかし、委員提案及び委員の皆様からいただいたご意見については、真摯に受け止め、市として改めて課題認識をするとともに、引き続き、市民の利便性向上のため、導入に向け尽力して参りたい。</p>
議 長	<p>委員提案の内容を補足し、提案する。</p> <p>バスロケーションシステムは、導入コストは、行政が支援するとしても、運用経費は、交通事業者が負担しなければならない。</p> <p>そこで、例えば、バス利用の多い高校生をターゲットとするお店が、システムに広告を掲載し集客につなげ、交通事業者は広告収入を得るという仕組みの導入である。</p> <p>これにより、交通事業者は広告収入を得ることができ、広告を掲載する飲</p>

食店は、利用客が増え、売上げの増に繋げることができれば、交通も経済も好循環な運用を行うことができる。

これは、松本委員の提案の考えにも準拠した仕組みの考え方である。

物理的な資源活用に主眼を置いてきた時代から、今後は、インターネット上のシステム等を活用し、市など所有している資産を民間がうまく活用することにより、利益を上げるという仕組みことを考えていく時代になっていくと思う。

事務局

松本委員、福島高専の生徒の皆様、ご発表ありがとうございました。

松本委員からは、稼ぐ公民連携を進めるために必要なことという内容の発表・提案であったが、厳しいご意見の中にも、熱い思いがあったと受け止めている。

本市は、いわき創生総合戦略において、市が主体となり、民間事業者や地域などと協働しながら課題や目標を共有し、取組みを推進していく体制の構築を、根底に掲げている。

職員の態度等についてのご意見もいただいたが、そもそも、市が公民連携にどのように取り組むべきなのかという本質的な問題があると認識している。

本市における公民連携の取組みとしては、いわきアリオスのPFI事業をはじめ、現在、実施している常磐地区市街地の再生整備における取組みや、21世紀の森公園のPark-PFIによる整備などがある。

ケースによって連携方法は異なるものの、取組みを通じながら、効果的な公民連携の進め方や、稼ぐ視点を持った取組みの方法などについて、考えていく必要があると思っている。

行政は「稼ぐ」ということが苦手分野であるため、民間団体等のお知恵やノウハウをいただき、ネットワークを活用しながら最大限取り組んでいきたいと考えている。

実際に公民連携を進めていく中では、必要に応じ、職員・組織・手法・システムなどといったプロジェクトのような体制づくりも可能性の一つである。

公民連携は、プロジェクトとして前進する公民連携と、強口委員からご意見いただいたように、住民支え合いといった側面からの公民連携もあると思っており、後者には、中山間地域におけるボランティア輸送など、地域における住民支え合いといったものがある。

これらを、いかに持続可能な取組みにしていくのかということも考えながら実施していかなければならないと思っている。

人口の減少や担い手不足が叫ばれる中、いかに活用できる人材の育成・確保を行うのか、また、税込減という財政状況の中で、公だけじゃなく、民の力をどのように活用していくのかという視点が問われている。

今後は、そういった仕組みづくりも視野に考えていく必要があると考えている。

福島高専の学生の皆様からは、バスロケーションシステムやキャッシュレス決済の導入についてのご提案をいただいた。

実際に、バスを利用される際に感じた問題・課題をどのようにして解決すべきかと考えていただいた生のご意見・ご提案と真摯に受け止めている。

先程もお話したとおり、このバスロケーションシステムとキャッシュレス決済については、市と県が、交通事業者と導入に向け、作業を進めているところである。

このような形で、若い世代の皆様の実体験に基づく市の課題を、ご提案いただき、非常に良かったと思っている。これからも市への提言・提案をしていただきたい。

また、先ほど、金子委員からご意見いただいたが、高齢者のバス利用に関して、特に中山間地域における買い物や介護などの交通手段の確保という課題があり、交通に関する課題は、バス交通だけにとどまらず、様々な分野にまたがり、全国でも大きな課題となっている。

本市においても、基本的な交通に関する課題への対応については、「いわき都市圏都市交通マスタープラン」や、「地域公共交通計画」などにに基づき、関係部署において引き続き検討・取組みを進めていくこととなるが、本会議においても、必要に応じ、議論ができればと思っている。

今回、このような形で委員提案を実施し、お二組の皆様にご発表をいただき、市政に足りない部分や、皆様が直面している市へのもどかしさなどについて、改めて認識させていただいた。

まずはご提案いただいた内容について真摯に受け止め、関係部署にも展開させていただきながら、皆様の考えと市政のズレを少しでも解消していきたいと考えている。

内容については、次回以降の会議などで関係部署の受け止めなど、レスポンスを返すことができればと思っている。

今回、非常に建設的なご意見をお伺いしたが、市としては、こういった建設的なご意見をこの市民会議の皆様からだけでなく、どのようにしたら、広く把握することができるのかについて、現在もその仕組みづくりを検討しているところである。

ぜひ、今後もこのような機会を設けていきたいと考えているため、積極的なご提案をお願いします。

(3) 令和5年度の政策について

資料3-1～資料4

発言者	発言要旨
事務局	資料3-1～資料4に基づき説明
議長	ただいまの説明に対して、ご意見・ご質問があればお願いしたい。
野木委員	「資料3-3」の「P17」の「人づくり投資予算」とは、先ほど松本委員が提案にあったような、市職員としての人材を育てる取組みがなされるのか。 また、どのような予算の使い方をするのか教えて欲しい。
事務局	市役所人材を育てる人づくりに対する予算について、次年度は、人づくりの取組みの一環とし、受験者数増加やより質の高い公務員の獲得に向け、従来の職員採用試験のほか、新たな試験制度の導入を予定している。 松本委員からご提案いただいた公民連携を進めるための職員教育については、今後、そのような視点に立ち、構造改革などの取組みを推進する中で、必要な検討を行っていきたいと思っている。

(4) その他

発言者	発言要旨
議長	他になければ、以上で本日の議事はすべて終了する。 以上をもって、私の本日の役割を終わらせていただく。

以上

以上の議事録が正確であることを証するため、次に署名する。

令和 5 年 4 月 12 日

議事録署名人 藤 邊 浩 明

令和 5 年 4 月 11 日

議事録署名人 草 野 宏